令和7年度　新宿区東京すくわくプログラム活動報告

新宿区立西早稲田保育園
新宿区西早稲田1ー9ー30

＜活動のテーマ＞

「表現」
～触れる、感じる、描く、つくるを楽しもう～

＜テーマの設定理由＞

限られた園の環境の中で、子どもたちが伸び伸びと表現できる環境づくりを保育者が継続して行ってきたため、子どもたちの“つくる”“描く“などへの関心が高まり「やってみたい」と、意欲が高まっている。
　日々の遊びや活動において、さらに好奇心や探究心を育んでいくための環境を整えていきたいと思い、テーマを決めた。

＜活動スケジュール＞

第1回	6月	講師による保育観察(環境中心)、テーマの掘り下げ、進め方等
第2回	9月	講師・保育者による保育観察(3歳児中心)、考察・共有　講師からの助言、今後について
第3回	9月	講師による保育観察、各クラスの実践活動への助言及び討議
第4回	10月	講師・保育者による保育観察(4歳児中心)、考察・共有・講師からの助言、今後について
第5回	10月	講師による道具(ステープラー)の使い方実践(4、5歳児)
第6回	10月	活動振り返り、各クラスから講師への実践活動についての質疑応答
第7回	1月	活動のまとめ方と、次回打合せ
第8回	2月	講師による保育観察、各クラスの実践活動への助言及び討議

＜活動のために用意した素材や道具、環境の設定＞

　絵の具各種(工作ポスターカラー、その他)、筆、テープ類(紙、ビニール、プラスチックテープ、養生テープ、布ガムテープ、その他)、紙類(画用紙、薄紙、クラフト紙、その他)、マーカー類各種、容器類(紙皿各種、紙コップ、プラスチックカップストロー、割り箸)、道具類(段ボールカッター、ハサミ、ステープラー、その他)、シート類(透明ポリシート、白色テーブルクロス、養生シート、その他)、接着剤(デンプンのり、スティックのり、木工用ボンド、その他)、ポリ袋類(傘袋、カラーポリ袋、ひも類(リボン、毛糸)、ラミネートフィルム、制作ワゴン、水彩色鉛筆

＜探究活動の実践＞

＜活動の内容＞

① 「こういうものをつくりたい」「できるかな」という発想や疑問をもつ。
② 発想に応じて、様々な形、色、感触の素材や必要な道具を選んで自分で試してみる。
③ 友達や保育者と発想やイメージを共有し、遊びの場を整えたり、工夫してつくったりする。

＜活動中の子どもの姿・声・子ども同士や保育者との関わり＞

【0歳児】 これはなんだろう？～初めて触れる感触～

・砂、水、花、葉などの身近な自然物に実際に触れてみる経験を大切にしてきた。初めての感触に触れたときは、手を思わず引っ込めたり表情を硬くしたりする姿もあるが、心地よい感触を味わい、経験を経るにつれ自分から物などへと進み近づき、歩いて行ってかかわろうとする姿も見られるようになってきた。砂遊びは、園庭にある砂場ではなく、0歳児だけの場を作り、たらいに乾いた砂を入れて保育者が触って見せたり、顔の高さからパラパラと落として見せたりして温かく心地よさを感じられるような環境から始めた。「あ、あ」と、指さしをしたり、「ぱあ」と、同じようにやってみようとしていた。

【1歳児】 粉遊び～心地よさを感じる～

・絵の具、ゆびスタンプなどの経験を経たのち、小麦粉を使って遊んでみる。少人数で活動するが、始めは消極的な姿も見られる。お椀にスプーンで粉を入れたり混ぜたりして遊んでいたが、バットを用意するとその中に入って足で感触を確かめたり、手でつかんで撒き、「わー」と、歓声をあげたり、「きれ～い」と言いながら粉の舞う様子を喜んでみたりしていた。

【2歳児】 ままごと遊び～素材を見立てて遊ぶ～

・ままごとや身近なお店屋さんごっこが盛んになってきている中で、白いスポンジを用意したらパンに見立てて遊ぶ姿があった。フェルトやお手玉を追加することで間に挟んでサンドイッチやハンバーガーに見立てて遊びが変化する。さらに薄紙を追加したら丸めてアイスクリームにしてお店屋さんごっこへとつながっていった。大きな紙に描いて行くとどんどん広がって「あれ～？」外へはみでるくらいになっていった。

とうきょう すくわく プログラム
こどもの「すくすく×わくわく」をおうえん

【3歳児】　「こわす」遊び～いたずら？無駄遣い？～

・細かく切った色画用紙や毛糸を焼きそばに見立てて遊ぶ。キャベツ・人参・肉等に見立てた色画用紙をハサミで切り落とすことに熱中する姿、切った紙や毛糸をバットの中に入れフライ返しで混ぜることに夢中になる姿がある。切った色画用紙を並べたり、飾り付けてごっこ遊びのイメージを広げたりもしている。また切った紙を更に切って紙に貼るとペープサートに大変身！顔を隠して会話がスタートする。部屋いっぱいに散らばった細かい色画用紙は、パクパクおばけに食べさせたり、箱やカップに入れたりしていくうちに片づけ終了。

【4歳児】　友達と一緒になりきって遊ぶ～イメージの共有～

・友達との会話を通して、ごっこ遊びのイメージを確認しあい、必要なものを決めながら遊びを進めている。始めは「お家を作ろう」と、言っていたが、イメージを出し合う中で、「猫ちゃんのお家」になったり、全く関係のない「トレーニングジム」になったり変化し始める。トレーニングジムを作ろうということになったときに、意見が対立して遊びが止まり、二か所に遊びが分かれていった。

【5歳児】　ステープラーを使ってみよう～安全な使い方と、活用の仕方～

・全員着席し、講師から順を追って使い方を教えてもらう。講師から直接、指導してもらうことが初めてだったので、注目して話を聞いていた。ステープラー握るとカチャッというステープラーの音は、2アクションあることを知るとすぐにできるようになる。手のひらサイズに切ってある好きな色の紙を選び、自由に打ち込んでいいという指示があると、しゃべらず黙々と打ち続ける。遊んでいくと針が並ぶ、形を見て模様や顔など、絵を描くように作ったり、紙を繋げて様々な形にしたり次々に作ったりしていた。少しずつ「(ステープラーの針で)こんな形ができた」「もう一枚の紙にもやってみよう」と、言葉が出始める。

とうきょう すくわく プログラム

こどもの「すくすく×わくわく」をおうえん

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

【0歳児】
- 0歳児にとっては、どんな素材でも「初めて」となる。自然物だけではなく、布、紙など様々な素材の感触を感じ、心地よさや楽しさを感じることで興味・関心が広がっていく。
- 遊びを通して、子どもの姿や素材等を書き出しておくことが大切だと感じた。

【1歳児】
- 小麦粉の遊びというと、最後は水を加えて感触を変化させていこうと考えてしまいがちだが、粉の感触だけで十分に楽しめることに気づいた。
- 子どもの気づきを「先取りせずに共感する」言葉がけの難しさを感じた。

【2歳児】
- 保育者は、ひとつのままごと遊びを継続していきたいと考えがちだが、子どものイメージはさまざまに変化するため、いったん収束させるのも一つの方法ということを知った。
- スポンジや京花紙の色や形を変えてみると発想が広がる可能性もあるが、イメージが変わっても飽きたわけではない。
- 何に見立てるかを保育者が楽しみにしながら、様々な素材を出していくとよいと感じた。

とうきょう すくわく プログラム
こどもの「すくすく×わくわく」をおうえん

【３歳児】
- 壊すことを楽しめるのが、3歳児の特徴でもあるので「今しかできない」と考えると、子どもの心をくすぐる。
- プラスチックテープは、使うことで加減を知っていく。ただの消費なのかイメージをもって試しているのかを見極めていく。
- 遊びの設定の時に、２つの素材を組み合わせて遊ぶ子どもと、１つの素材でじっくり遊ぶ子がいるので、3つのコーナーに分け、一部の重なるコーナー設定など工夫するとよい。

【4歳児】
- 子どもたちのやり取りの中で援助をするタイミングに迷うことがあるが、4歳児は「見守る」ことが援助で、保育者が見守ることに慣れていく必要がある。
- 何かが起きることで遊びが深まっていく。保育者が大人のイメージや枠組みで知らせてしまいがちだが、子どもが考えることで発想が広がっていくことに気づいた。

【5歳児】
- 大人はステープラーを「つなげる道具」として使うが、子どもは「描く道具」として使うことに気づいた。模様や迷路にしている子もいて、子どもの発想に驚いた。
- 『針をいれるところを直接見せない』ということを徹底したことで、安全に使え、子ども達は、「面白い」経験ができた。針を入れると出ないペットボトルケースを作成すると、子どもが外れた針を入れやすく自分で外れた針を片付けやすくテーブルや床に散らばらない。

とうきょう すくわく プログラム
こどもの「すくすく×わくわく」をおうえん